

【4年】

各教科共通

- ◎読み解く力〈6つの領域〉を土台として自己調整学習の推進を図る。
- ◎教科書分析を行い、言葉にこだわり、「読むこと・書くこと・話すこと」の時間を重視する。
- ◎必然性のある内容を工夫し、家庭学習との連携を図る。

国語

■児童の状況	○説明文では、叙述と挿絵を対応させて読むことができる児童が多い。 ○リーフレット作りなどの言語活動に楽しみながら取り組める児童が多い。 ●目的をはっきりさせた文章を書くことが苦手な児童がいる。 ●読書量が少なく、漢字を文章の中で正確に使うことが苦手な児童が多い。
■指導についての課題	・自分の考えを分かりやすく文章としてまとめる力を育てる工夫 ・文や文章の中で、習得した漢字を使う習慣作り ・叙述を適切に読み、正確に文章を理解するための指導の工夫 ・読書をする時間の確保や活字の多い本に触れることができる機会作り
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・短作文など、自分の考えを分かりやすく書く活動の時間を適宜設けていく。 ・学年に適した本を提示して、じっくり読書に取り組める時間をつくる。 ・国語辞典等を使って、言葉の意味を正確に理解する時間を確保する。

算数

■児童の状況	○グラフを描く活動は多くの児童ができている。 ○既習事項を使って、自分の考えを図や絵で分かりやすく表現しようとする児童がいる。 ●学習内容の定着において、個人差がある。特に基礎的な計算力に課題がある児童が見られる。 ●多様な方法で問題解決したり、考え方を説明したりする力を付ける必要がある。
■指導についての課題	・文章問題の正しい理解と立式 ・個に応じた思考力、計算や作図の技能の向上 ・自分の考えを相手に伝えたり、説明から相手の考えを正しく理解したりする力の向上
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・少人数指導を生かし、個の実態に応じた学習課題を設定する。 ・既習事項を想起させ、図や表、絵や言葉で自分の考えを表現する活動を多く取り入れる。 ・問題解決するときに、考え方を言葉や文章で、友達に説明する場を多く設定する。

社会

■児童の状況	○身近な経験や既有知識を振り返りながら、学習に取り組める児童が多い。 ○学習したことの中から、大事な事柄を自分でまとめていくことができる。 ●グラフや表、図などの資料から、必要な情報や特徴を正しく読み取ることに個人差がある。 ●学習の内容を自分事として落とし込めない児童がいる。
■指導についての課題	・資料の正しい読み取り方の指導の工夫 ・問題解決学習のために考察する時間の確保 ・單元ごとの内容に課題意識をもって取り組ませる授業展開
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・問題解決学習を行い、自分と社会との関わりを考えてまとめる時間をつくる。 ・資料（図・グラフ・写真など）の読み取りを丁寧に行い、問われていることを的確に答えることができるようにする。 ・資料を「読む」ことを習慣付けるようにして慣れさせるようにする。

理科	
■児童の状況	○観察や実験に意欲的に取り組んでいる。 ○デジタル教材や動画などの視聴覚教材で、興味関心が高まっている。 ●実験や観察の結果を基に考察し、考えを書き表すことに苦手意識を感じている児童が見られる。 ●既習事項から予想を立てるなど、自分の考えをもつことが苦手な児童がいる。
■指導についての課題	・予想を立てて、結果を比較・考察することが苦手な児童に対する支援の工夫 ・考察を自分の言葉でまとめるための十分な時間の確保
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・実験をする際に、どうしてそうなるのかを考えながら実験に取り組み、今までの経験や予想などを生かして結果について考察できるような支援を工夫する。 ・分かったことについての話し合い活動が充実できるよう、カードを使うなど意見の集約・分類方法を工夫する。

体育	
■児童の状況	○体を動かすことが好きな児童が多く、意欲的に取り組む姿が見られる。 ●ゲーム運動等で、戦術の思考の広がりには課題のある児童がいる。
■指導についての課題	・運動の特性を中心に、児童が目的をもって思考しながら運動できる時間の確保 ・攻防を楽しみながら、チームでよりよく運動するためのゲーム活動の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・タスクゲーム等を行い、多くの児童が目的をもって運動できる活動を取り入れる。 ・学び合いを充実させるために、互いの活動を見せ合う場面を取り入れ、技能のポイントについて児童同士で気付くことができるよう指導する。

総合的な学習の時間	
■児童の状況	○1・2学期は「緑のカーテン」に取り組む予定である。グループ学習では、意欲的に話し合いを進めることができる。 ●活動に見通しがもてず、自分から進んで活動に取り組めない児童が見られる。
■指導についての課題	・活動への見通しのもたせ方の工夫 ・課題解決に必要な情報を選択させる指導の工夫 ・自分の考えを分かりやすく表現することができるような力の育成。
■授業改善に向けての具体的な方策	・学習活動の見通しがもてるように、学習活動の計画を前もって掲示する。また、使用した資料等はまとめて、いつでも使えるようにしておく。 ・毎時間のめあてや振り返りは、活動記録カード等に記録し、継続した学習をしていく。 ・まとめの活動として新聞作り以外にも、ポスターやパンフレット、スライドにまとめることを計画したり、プレゼンテーションやポスターセッションを行う時間を設定したりするなど、多様な表現の方法を身に付けられるような学習計画を設定する。

特別の教科 道徳	
■児童の状況	○実生活を振り返りながら、毎時間の学習について考えることができている。 ●授業で学習したことが、実際の生活に反映させていくことができている。
■指導についての課題	・道徳的価値の大切さに気付かせる。 ・思考が深まらない児童への支援と配慮をする。
■授業改善に向けての具体的な方策	・生活場面とのつながりも考えて発言できるように、発問等を工夫していく。 ・役割演技等の活動を取り入れ、学習を自分事として捉えられるように工夫する。 ・ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、学級全体での交流へと広げていく。

外国語活動	
■児童の状況	○外国語の単語を覚えたり、外国語を使ったゲームをしたりして、友達と交流しながら楽しく英語に親しんでいる。 ○ALTとの外国語の会話を通して、楽しくコミュニケーションをとっている。 ●知っている単語の数が少なく、少しずつ語彙を増やしていく必要がある。
■指導についての課題	・より楽しく主体的に取り組めるような活動や指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・ゲームや歌で楽しみながら外国語に親しむことができるようにする。 ・外国語で友達と交流したり、相手の話すことを聞いたりできるような場面を多く取り入れる。 ・ペアやグループでの活動を工夫し、外国語を使った交流の場を多く設ける。